

あしが隊 新聞

Vol.70
2019年1月25日
編集者:前田 美沙



上野真純

前田美沙

本多紗智

初瀬健太

「自己紹介」

2019年になり、もう1か月が過ぎてしまいましたね。2016年11月から地域おこし協力隊として活動をしている上野真純と申します。男性です。出身は神奈川県厚木市です。一昨年の4月から南下地区に住んでいます。

「なぜ地域おこし協力隊になったのか。」

厚木市に住んでいる時、仕事と住む場所を変えたいと思いながらも、なかなか行動を起こせずにいました。そんな折、インターネットでいろいろ検索をしていた時に天龍村地域おこし協力隊のフェイスブックが目にとまりました。そこでは、地域おこし協力隊が村民との繋がりを大切にしながら地域に貢献しようと活動する写真がありました。その写真を見て私もこの場所で一緒に活動したい思い、地域おこし協力隊に応募しました。

「なぜ天龍村を選んだのか。」

移住することを考えインターネットで調べてみると「JOIN」というサイトがあり、そこで地域おこし協力隊のことを知りました。たくさんの市町村が地域おこし協力隊を募集していたのですが、ホームページの写真を見て楽しそうで活動の制限が少ないところを選びました。

「昨年1年を振り返って」

様々な人に声をかけて活動してきましたが、複数の人たちと一緒に何かを成し遂げることは難しいと感じました。一人で活動できるように今年からは自己研鑽しながらいきたいと思っています。

「活動や村に対する想い。」

地域おこし協力隊として活動できるのは、最大3年です。期間内に村民の想いを受け止め、自分の想いを伝え、共に望ましい状況になるよう何度も話し合いたいと思っていましたが、村民の方々と集まり話の場を作ることすらとても難しく、共通理解をした上で様々なことに挑戦するとなると、私の力で3年以内に行う事は不可能であると思いました。任期満了後に自立して天龍村で生活できるようにするため、地域おこし協力隊として活動できる残り1年弱は、稼ぐことを意識し、試行錯誤しながら活動していきたいと考えています。

「現在の活動内容と今後にかける想い。」

現在の活動は、ニセンジでカフェを行っています。一点集中で活動を行い、どうすれば生計を立てることができるのか計画し、行動していきたいと思っています。

前田の天龍山暮らし～番外編～

改めて自己紹介！

名前:前田 美沙(まえだ みさ)
年齢:平成2年生まれの28歳
前職:佐久浅間地区で一人農家
住んでいる地区:西原
好きなもの:アウトドアなこと
趣味:三線・ギター
出身地:富山

なぜ協力隊になったのか?

狩猟をガッツリ学びたくて、どうせなら何処かに弟子入りできないか探していたのですが、やはり弟子入りとなると当然給料がでないので、生活がままならなくなるなあと悩んでいました。

そんな時に、そういえば知り合いが地域おこし協力隊の活動で有害鳥獣駆除を行っていた事を思い出し、調べ始めたのがきっかけです。

なぜ天龍村を選んだ?

もともと長野にずっと住んでいて長野の環境が気に入っていたので、長野県内の協力隊募集の中で一番山深そうなおこしだった天龍村を選びました。

今の活動内容

現在は大まかにいうと、農業「林業」狩猟「時々デザイン」に重きを置いて活動をしています。具体的に現在の活動として、

・猟銃所持免許及び狩猟免許の取得
・解体などを学ぶ
(村内での有害鳥獣駆除を目指す)

・炭焼き技術の継承
・炭や薪を使った生活を現代でも持続させていくことを目指す仕組み作り

・山菜山の管理・ミョウガ栽培
・お茶の栽培管理を学び、農家さんのサポートを目指す(春より)

・パンフレットやポスター、名刺などの作成
などなど...と言った感じですよ。

活動に対する想い

天龍村に来て5ヶ月が経過しました。まだまだ村にとって結果の出る活動ができていないとは言えません。

今は村内の色々なプロフェッショナルの方に先生になつてもらっていて、それこそ弟子入りの最中です。3年間という協力隊期間の間は技術を習得し、自分の道を作る時間だと思っています。ある意味3年後から本場の地域おこしでしょう。

自分の3年後からの仕事や動きが村の方のサポートにも自然と繋がっていくことができるのであれば、それもまた小さな地域おこしになるのではないかと感じています。

私はイベントを企画したり人をまとめたりするのがどちらかというと、少し苦手分野だったりします。その分、技術を磨いたり追求するのが



大好きです。

天龍村の高齢の方々が繋いできた天龍村の暮らしを、技術的な面でこの先もずっと天龍村に残していける活動を目指しています。

村のために...と気張った気持ちではなく、その活動が私の心の財産にもなるから、すごくやりがいがあります。

2019年の決意

2019年からは2018年に学んだものに関しては「始動」させていこうと思っています。

炭焼きも回を重ね、流れは分かっしてきましたが、まだまだ煙や火の調整、伐木などの技術を向上させる必要があります。

なんでもそうですが、「一人で任せられる」くらいの技術を目指しています。

猟銃所持免許もなんとかゲットできそうなので、2月の狩猟試験に受ければ、来年はいよいよ実際の猟です。

山菜やお茶に関しても春から一年生なので、とても楽しみです。

手探りの中で不安に思うことも多いですが、悩みながら、楽しみながら天龍村での山暮らしを満喫して行きたいです。



刻々天龍村 霜月便り

2019
亥

ご挨拶が遅くなりましたが、新年明けましておめでとうございます。
2018年の2月下旬に天龍村に越してきて、間もなく1年が経過しようとしています。
そこで、今月号は今までの振り返りと2019年の目標について整理してみるという主旨でお届けしようと思います。

協力隊を志望した理由は？

東日本大震災後、日本各地の田舎を旅しながら働いている中で、新潟県での農村インターンシップ経験が田舎暮らしをしたい！という想いを後押ししてくれました。また、このプログラムを主催している地域づくり関係の行政の方から、地域おこし協力隊の制度を教えていただき、いつか自分もやってみようという気持ちをずっと持っていました。

なぜ天龍村を選んだの？

本当にたまたま、偶然です。場所選びに関して深く考えすぎるとなかなか先に進めなくなるので、勢いで来てしまったというのが正直なところ。場所が決まって修行が始まるという誰かの言葉が脳裏をよぎります。

協力隊の活動に対する考え

地域おこし協力隊って何してるの？地域の為になるの？数年でいなくなる人達でしょ？お金もらって田舎に住んでるだけでしょ？などなど...現在、日本全国に5000人以上も配属されている協力隊の制度に対して、人それぞれ色々な思いや感じ方があることと思います。私個人の考えにはなってしまいますが、「自分たちが住んでいる場所をもっと良くしたい、この場所を未来に残していきたい」という思いが地元の方々に無い限り、地域おこし協力隊の活動は一方通行になってしまうのではないかと感じます。それぞれの活動によって、今すぐに村の何かが変わるということは絶対にありませんが、小さな種がどこかで芽を出すと良いな、という気持ちを忘れずに活動をしています。

2018年は何してた？

来た当初は農林業公社に在籍していて、6月頃に役場班へ異動させていただきました。真冬に育苗から準備した野菜の栽培が秋後半まで続いたので、前半はほとんど畑仕事に費やしていました。後半は写真や動画を使って村の伝統文化や風景を情報発信をしたり、お祭りの記録集を作成したり、高齢者の方々への聞き取りなどを地味に続けています。聞き取りから文字おこし、まとめ、時系列の整理など大変労力のいる作業ですが、できる限り沢山の方々にお話を聞き、未来への貴重な記録として残していきます。

2019年はどう過ごす？

2018年、1年間の研修に通い小さな農山村で遥か昔から紡がれてきた暮らしと、その根本にある精神性、地域経済(ローカルビジネス)や地域づくりの活動事例・田舎での生業づくりなどを学んできました。今の時点では、これらは私の頭の中に蓄積された「情報」以上の何物でもないため、自分の身体を使ってこれらを「経験」「知識」に変えていくことを目指していきます。今後は人と人との交流の場を設けたり、村の文化や歴史を視覚に残したり、山の資源の活用、自分の好きなこと(料理や写真・文章関係など)を、村にとってプラスになる形で活かせるような機会を作っていきたいと思っています。

ゆらゆら変遷記〜天龍村Ver.2

初瀬健太

明けましておめでとうございます

本年もどうぞよろしくお願ひ致します

▼丸一年▲

年が明けて早一か月が過ぎようとしておりますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

僕はこの冬季期間を使って実家に帰ったり、視察に行ったり、北海道でお世話になった農家さんのところに遊びに行ったりと普段でできないことに時間を使っていました。

視察に訪れたのは鹿児島大学の農学部で、そこではザーネン種(白色の一般的な山羊)以外にもトカラ山羊とヌビアン

(純粋ではなく七十五%くらい)が研究のために飼育されていて、その山羊の見学とお話を伺いに行ってきました。僕としてはミルクよりも肉用として山羊の家畜化を考えているので、乳量の多いザーネン種よりもトカラやヌビアン、またはボア種を探しています。山羊だけでなく、いろんなことを勉強しながら、ちよつとでも天龍村の農業の部門でプラスにつながればと思っています。

二月一日で天龍村に来て一年になります。実感としてこんなにも早く一巡りするとは思いませんでした。日々を振り返れば良いことも、残念なことも、反省することもたくさんありました。とても充実した一年を過ごすことができました。協力隊二年目の今年も、昨年同様稲作を栽培しますが、稚苗を購入するのではなく、種籾からスタートします。野菜のほうはピーマン、ズッキーニ、スイートコーン、ネギに作物を絞って取り組んでいく予定です。

楽しみでもあり不安でもありますが精一杯やっています。

▼地域おこしフェア▲

一月二十日(日)に東京ビッグサイトで移住・交流と地域おこし協力隊募集のイベントがありました。北は北海道から南は沖縄まで全国各地の自治体が集まり、各々思い々々の方法で集客していました。天龍村はいつもどおり柚子を被ってウロチヨロ会場内を回りながら、色んな視線を浴びました。仕事だと割り切れば何でもできます(笑)名前と場所だけでも知ってもらえれば万々歳です。意外と他の自治体でも被り物をしていて、類は友を呼ぶらしく歩き回っていると自然と目が合って、話をする機会もありました。左の写真は鯉の被り物の新潟県長岡市と猫ハウスを被った長野県飯島町です。他にもニンニクや兜、富士山がいましたが、天龍村の柚子坊やに勝るものはいません。被り物界のエースです。

▼梅花駅伝▲

二月十七日(日)に開催される梅花駅伝に満月屋Aチームで4区(平岡ダム〜阿南町御供商店街)を走ることにしました。昨年と同じ区間を走りましたがキツかった記憶がありません。全然走りこめてないので不安ですが、走った後の温泉を楽しみに湖岸道路を走り抜けます！

